

濃厚接触
ステイホーム
無観客
緊急事態宣言
ソーシャルディスタンス

インフォデミック

GoTo
キャンペーン

ウィズコロナ
ワクチン

デマ
在宅勤務

デルタ株 差別

東京2020
インターネット

3密

メディア
ケア労働



まん延防止等重点措置

未知 医療従事者

5類

オミクロン株

不要不急 歴史は繰り返す

トイレットペーパー

陰謀論 フェイク 声出し応援

自粛警察 エコーチェンバー 観光の再生

フィルターバブル アルファ株 感染症法 ロックダウン

SNS

新型コロナと 情報とわたしたち II

ニュースパーク
日本新聞博物館

2024
4/20 土 ▶ 9/1 日

——コロナがわたしたちに残したもの

会場 ニュースパーク(日本新聞博物館) 2階企画展示室

主催:ニュースパーク(日本新聞博物館)

協力:東京写真記者協会

後援:神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会、川崎市教育委員会

■開館時間 午前10時から午後5時(入館は午後4時30分まで)

■休館日 月曜日(祝日・振替休日の場合は次の平日)

■入館料 一般 400円 大学生 300円

高校生 200円 中学生以下無料

——コロナがわたしたちに残したもの

「情報と新聞の博物館」の緊急企画展から約4年 情報をめぐる混乱と

当館は、新型コロナウイルス感染拡大による最初の緊急事態宣言が明けたばかりの2020年7月、緊急企画展「新型コロナと情報とわたしたち」を開催しました。SNS時代に起きた世界的な感染症の流行は、真偽ないまぜの情報が瞬時に大量に拡散される「インフォデミック」という現象をもたらし、不安や恐怖で流言・デマが行き交い、医療従事者や感染者らへの中傷・差別などもありました。準備期間の大半が職員一同、在宅勤務による作業という経験は初めてでしたが、「情報と新聞の博物館」として当館は、日頃情報リテラシーの大切さとメディアの役割を伝えており、コロナ禍で起きたこれらの出来事を記録し、どう対処すればよいのか共に考えたいとの思いがありました。

2290人からもっと広げたい 分断、より深刻に

緊急企画展は、同9月に閉幕しました。まだ外出する人も少なく、期間中の入館者は2290人でした。その後も、ワクチンをめぐる流言、東京オリンピック・パラリンピックの開催をめぐる意見の相違など、社会の分断が進むような出来事が次々に起こりました。



2020年の緊急企画展では、まだ不安のさなかであること、その中で新聞が伝え続けたことを表現した。その時の象徴的だった出来事として「トイレットペーパーデマ騒動」を図解した

「5類」移行から1年。ふたたび共に考え、未来につなげたい

現代のわたしたちは、インターネットやスマートフォン、SNSによる利便性を享受しており、それらが無い時代に戻りすることは困難でしょう。このような状況で、わたしたちは、情報に振り回されないためにどうすればいいのか。常設展示もコロナ禍以降、このことを意識して改修しました。コロナが感染症法上の5類に移行して1年たった今、コロナ禍がわたしたちに何を残したのか、SNS時代のマスメディアの役割や課題は何か。短い期間に同じテーマの展示を繰り返すのは、当館としては異例ですが、あらためて本展を通じて一緒に考えたいと思います。「確かな情報」がなぜ必要なのか――。

緊急事態宣言、五輪1都3県無観客、連日の感染確認、5類移行など、コロナ禍の状況や動きを伝えた各紙



読売新聞 2020年1月1日 朝刊
中国で確認された原因不明の肺炎は2020年1月1日付の読売や、共同通信の配信を載せたいくつかの地方紙に小さく載ったのみだった

中国で原因不明肺炎
【北京＝比嘉清太】中国国営中央テレビ（電子版）などによると、湖北省武漢市当局は30日、市内の医療機関で原因不明の肺炎患者が相次いで確認されたこと発表した。当局は77件の発症が確認され、このうち1件が「厳しい病状」を呈している。中国政府は専門チームを現地に派遣し、状況の把握に乗り出した。当局は「新型コロナウイルス」とは断定できないとしている。

2020～2024→未来へつなぐ コロナ・インフォデミック

<h3>I SNS時代の感染症</h3> <p>デマ騒動/分断・対立/専門家の提言・見解をどう届けるか、どう読むか</p>	<h3>II 歴史に学ぶ感染症と情報</h3> <p>コレラ/天然痘/ペスト/スペイン風邪/戦後の混乱と感染症/世界を揺るがす感染症/新聞小説の中の感染症</p>	<h3>III 新型コロナウイルス新聞はどう伝えたか</h3> <p>「中国で原因不明の肺炎」と伝えた2020年1月1日付の初報から、23年5月8日の5類移行までの状況や動きを新聞と報道写真で振り返ります</p>	<h3>IV インフォデミックの経験、未来へつなぐ</h3> <p>コロナ禍で「インフォデミック」を経験したわたしたちは、今後どのように情報と付き合えばいいのか、考えます</p>
---	---	--	---



N ニュースパーク
日本新聞博物館



みなとみらい線「日本大通り駅」3番出口(情文センター口)直結
JR根岸線・横浜市営地下鉄「関内駅」徒歩10分
横浜市営バス「日本大通り駅」徒歩1分
車で首都高速「横浜公園出口」から約3分

トイレットペーパーデマ騒動はなぜ起きたか

2020/2/27 AM10:00 **最初のデマ投稿**
「新型コロナの影響で中国から輸入できず、品切れになる」とのデマtwitter投稿。ほとんど拡散しなかった。

2020/2/27 PM2:00 **善意の否定投稿増加**
デマを否定する善意の投稿が増加。「大半が国産だよ」「落ちついて」「紙製品の出産を知らせる注意喚起も増加。「入荷しますと言って戻ってくれず」「うちの近くはまだあった」

2020/2/27 **夕方以降**
ニュースサイトでテレビ番組がトイレットペーパー騒動を取り上げる。→デマ否定の投稿・リツイートは28日までの2日間で累計32万件。

2020/2/27 →2/28 **トイレットペーパー販売急増**
トイレットペーパーの売り上げが27～28日にかけて急増。買いだめした人の割合以上が「供給に問題がない」と知っていた。しかし「デマの流布」品薄な状況を見て、トイレットペーパーを購入。
日本経済新聞4月6日付朝刊(電子版5日付記事)を基に筆者が作成

